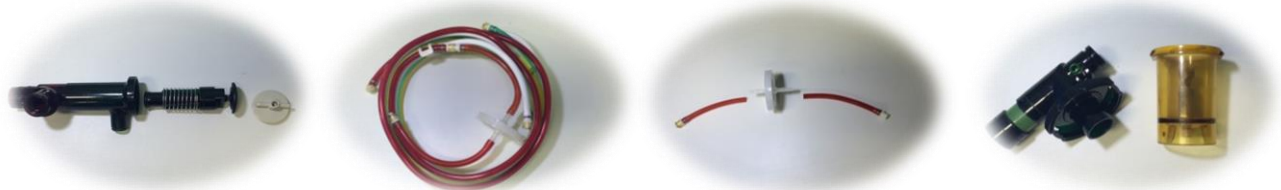
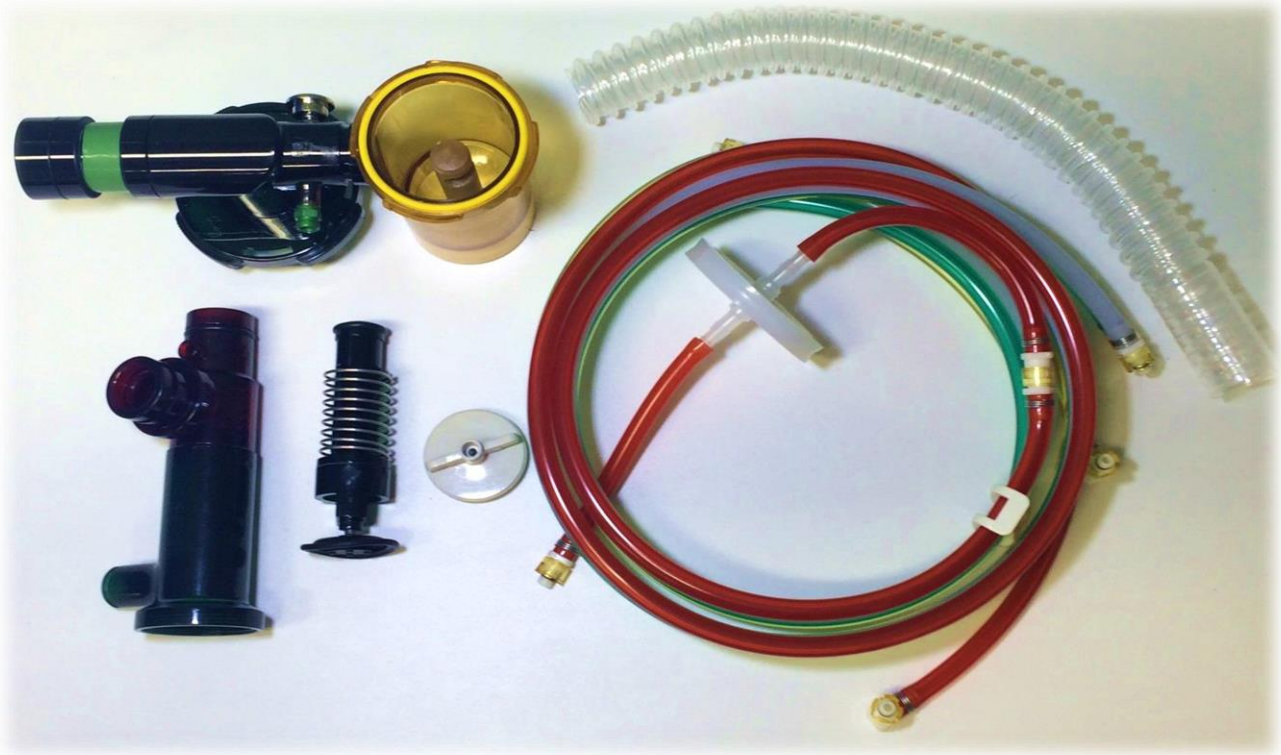


IPV[®]呼吸回路 組立手順

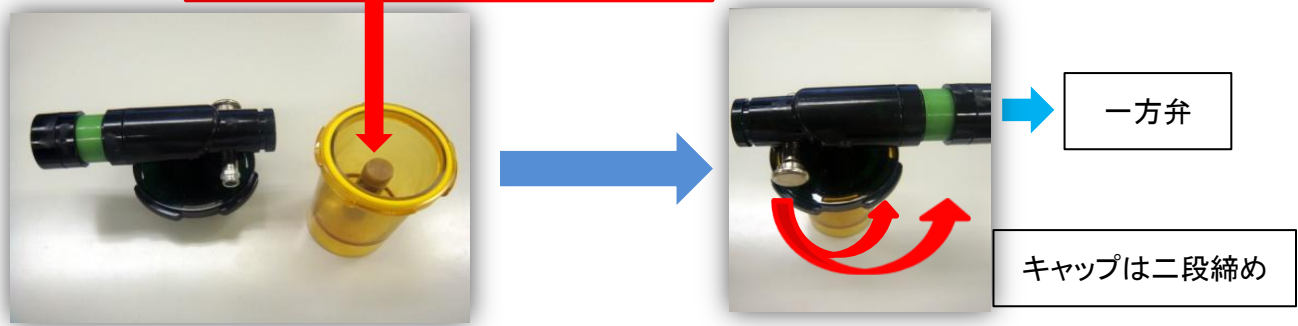
IPV[®]-1C / インパルセーター[®]



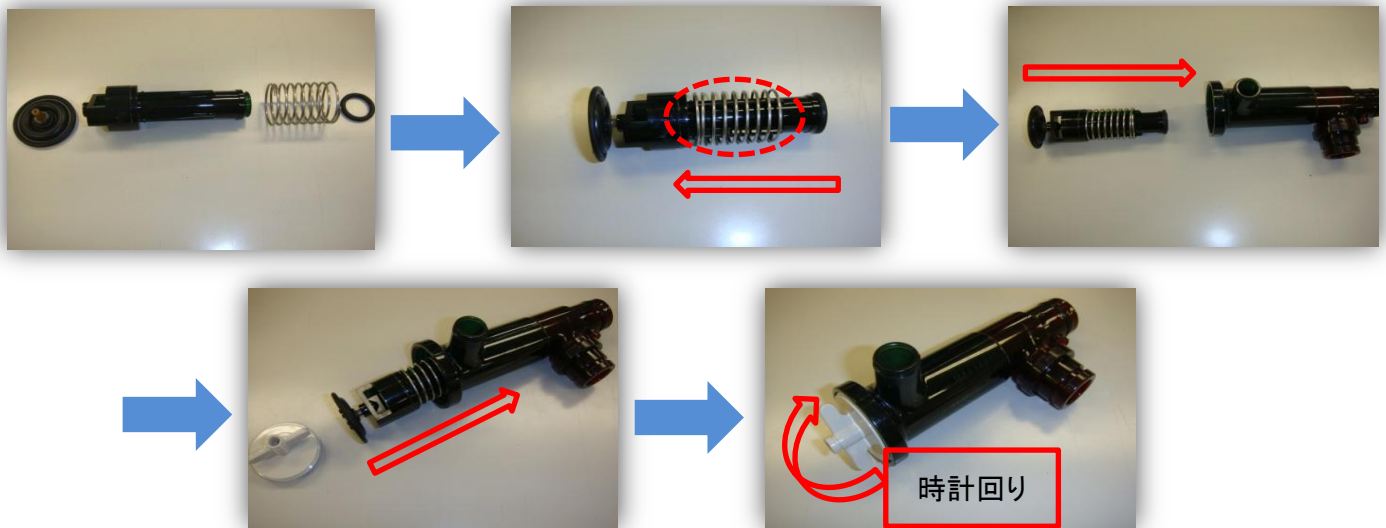
IPV®呼吸回路：組立手順

1. 患者に使用する前にIPV®呼吸回路が滅菌済か確認する。
2. IPV®呼吸回路のネブライザーを組立てる。

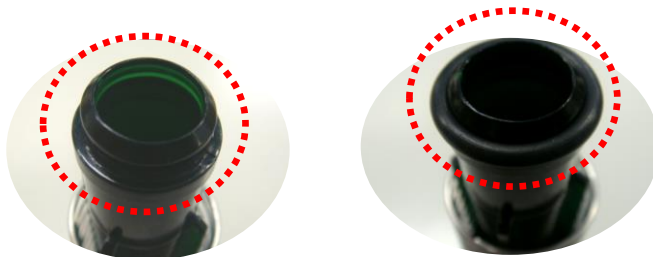
ネブライザーボウルの芯がしっかり嵌っていることを確認！



3. ファジトロンを組立てる。



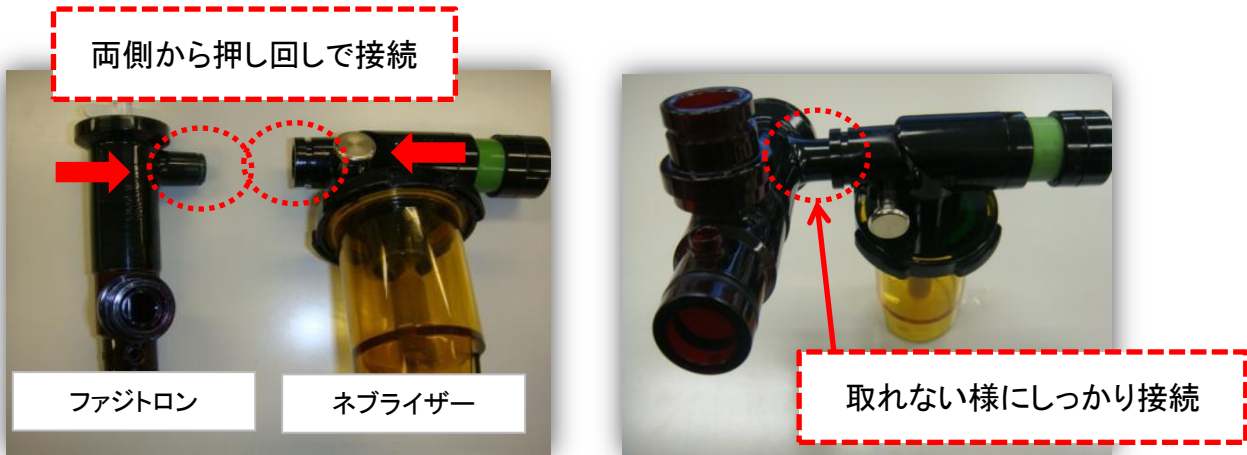
ベンチュリー管先のO-リングがあることを確認！



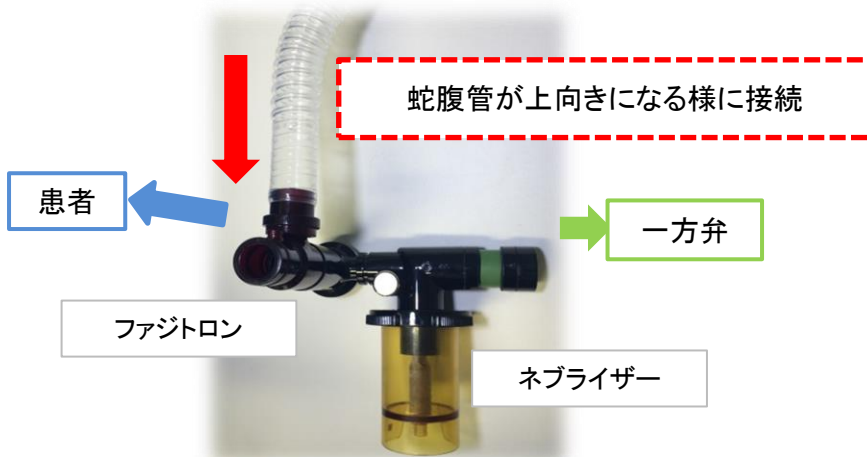
O-リングが無い状態

O-リングが有る状態

4. ファジトロンとネブライザーを接続する。

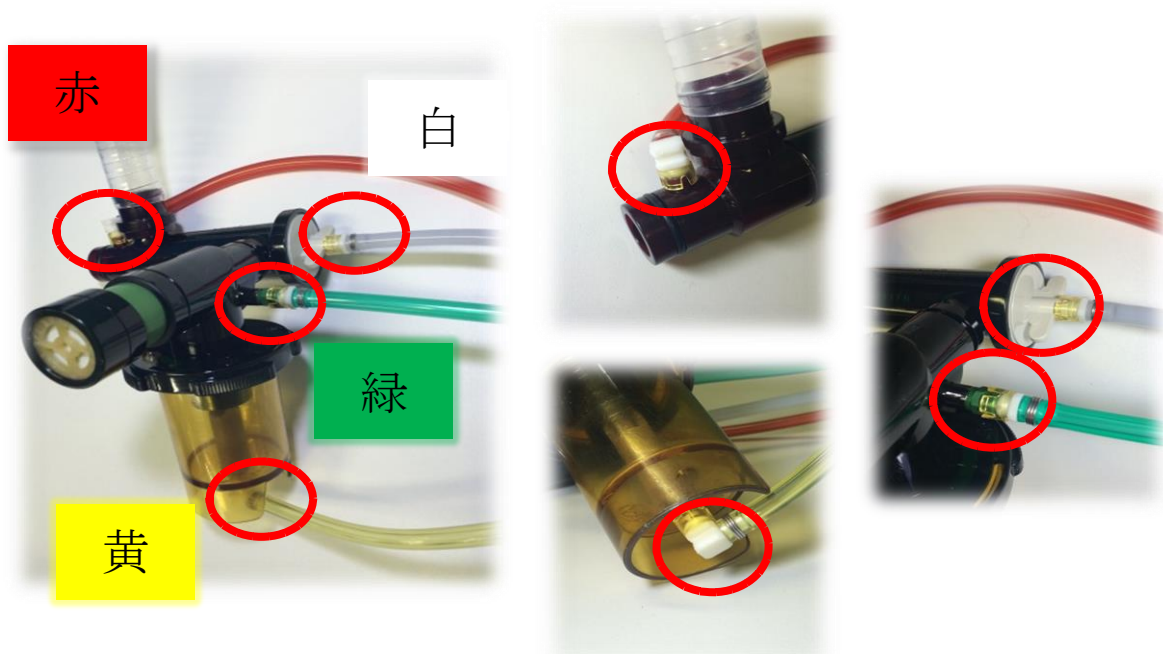


5. ファジトロンの呼気ポートに蛇腹管を接続する。



6. 色別に4連チューブを接続する

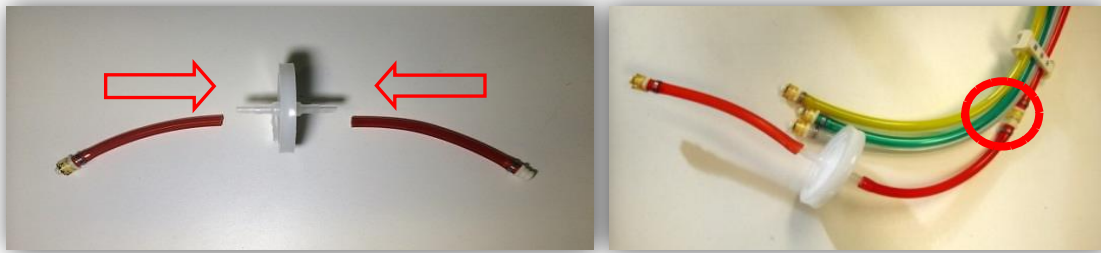
(違う色でも接続出来てしまうので注意すること。)



7. 患者のインターフェイスに合わせる。必要であればコネクターを使用する。



8. I P V本体と本体側と書いてある4連チューブを接続する。□
(赤のラインにはバクテリアフィルターが接続されていることを確認する)



注意

バクテリアフィルターは患者1人毎に1個。

患者が変わる時は、破棄し新品を使用すること。

同一患者の場合であっても連続使用は最長1年まで。

洗浄後に再接続する際は使用前に水滴やフィルターが濡れていないことを確認してから使用すること。

水滴が確認できる場合、または目に見える汚れ等がある場合は交換する。

《潤滑剤の使用方法・使用箇所》

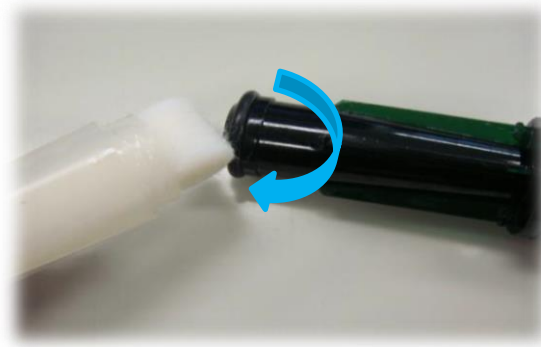
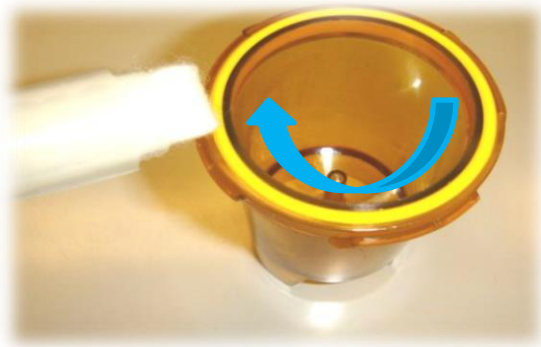
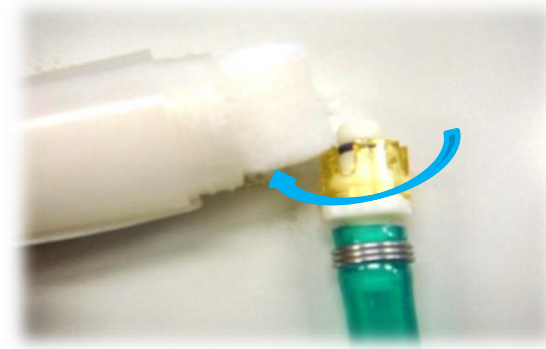
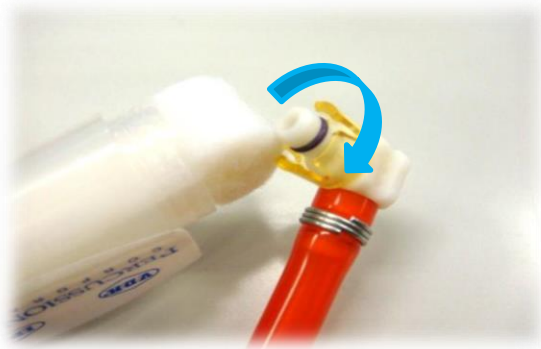




《ダイヤモンド》



《ベンチュリー管先 O-リング》



潤滑剤は全てのゴムパッキンに使用することが出来ます。潤滑剤を塗る事によって部品に無駄な力をかけることなく装着できるようになるので、こまめに潤滑剤を使って破損を防ぎましょう。

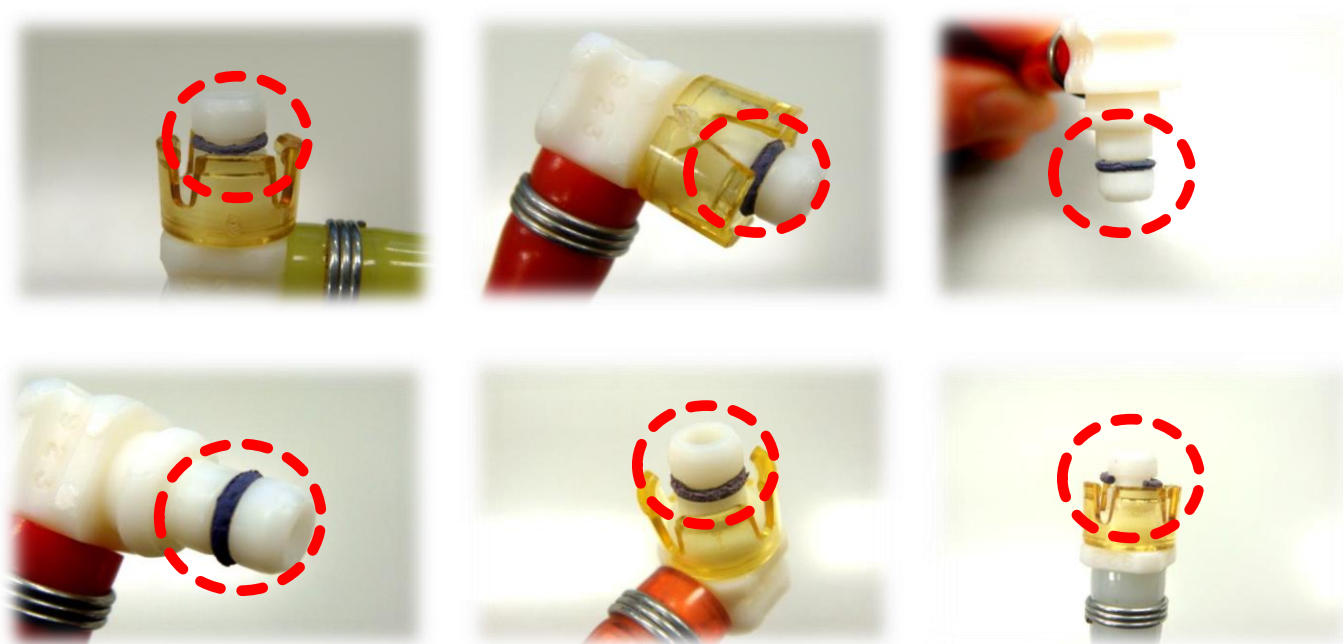
特にVカムの破損は潤滑剤を使用すると最小限に防げます。

《Vカムについて》

4連チューブの脱着時に不要な力が掛かると破損をきたすことがあります。
プラスチックの劣化に伴い、ヒビが入ることもあるので、日常管理の中で
チェックしてください。



《O-リングについて》



上記のような状態になったら、O-リング (B10526-10PK) を交換してください。

IPV®呼吸回路：洗浄手順

1. 患者の治療が終わり洗浄する時はIPV®本体から外し、呼吸ヘッドは分解する。



2. 分解した呼吸ヘッドは、中性洗剤で洗浄する。（推奨：ぬるま湯）



3. よく濯いだ後、しっかりと乾燥させる。
（食器乾燥機等の乾燥機の利用：一部可）

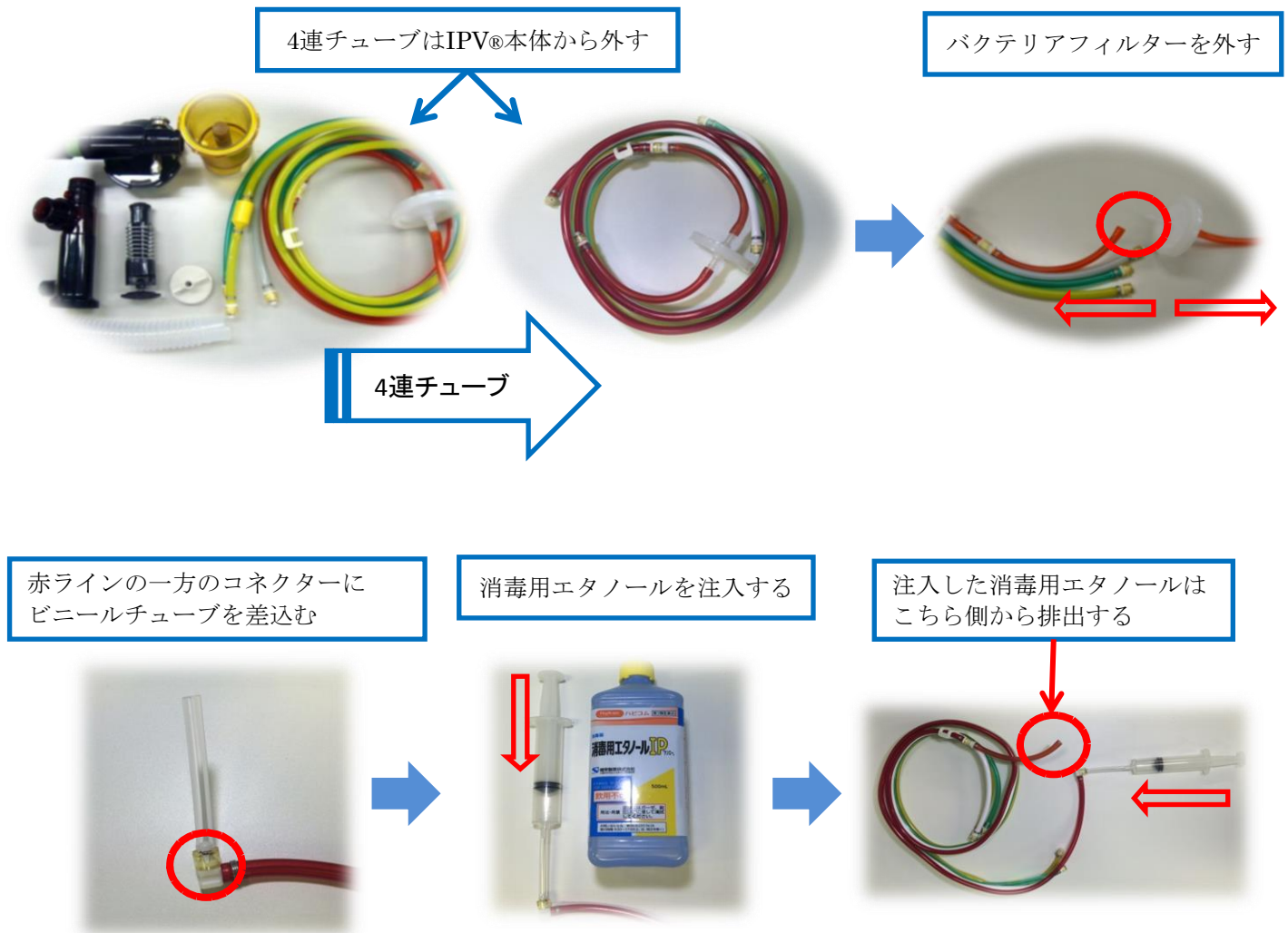


呼吸ヘッド：乾燥機利用可

4連チューブ、蛇管：乾燥機利用不可



4. 4連チューブは赤チューブにのみ週に一度、消毒用エタノール等での回路の洗浄を行う。（消毒用エタノール10cc位を目安にビニールチューブからシリンジで注入する）



5. 呼吸回路は1週間以上使用する患者の場合、週に一度漬け置き消毒をする。（希釈濃度、浸漬時間等は使用する消毒液の用法・容量に準ずる）



注：呼吸回路、チューブともに完全に乾燥させることによって感染を防ぎましょう。

《乾燥方法》

呼吸回路はきれいな布などの上のせて自然乾燥。

*ファジトロンとネブライザーのみ乾燥機（例：食器乾燥機等）

に入れて乾燥することも可能。

（4連チューブと蛇管は熱変形を起こすので乾燥機の利用は不可。）

*呼吸回路の赤チューブはアルコール消毒液を蒸発させる必要があるので
施設でご使用のIPV®-1C/インパルセーター®を用いて乾燥させる。

1. 消毒が終わった4連チューブが器械に接続されていないことを確認。
2. 赤チューブ（アルコール消毒液のみ）のL字コネクターを本体側のバルクヘッド「ネブライザー（黄色）」に接続する。
3. 器械をONにする。（IPV®-1Cをお使いの場合は、配管のある部屋で使用し、ON/OFFスイッチをONにする。インパルセーター®をお使いの場合は、電源に接続し背面の電源スイッチをONにする。）



赤チューブの「L 字」コネクターを
本体側黄色のバルクヘッドに接続



赤チューブの反対側が開放されて
いることを確認して、IPV®本体の
スイッチを「ON」にする。



赤チューブの「L」字コネクタを
本体側黄色のバルクヘッドに接続



赤チューブの反対側が開放されて
いることを確認して、インパルサー®
本体背面の電源を「ON」にする。

*同一患者においても1カ月以上連続使用する時は、1カ月に一度を目途に呼吸回路一式を滅菌にかける方が望ましい。



パーカッショネア・ジャパン株式会社

東京都千代田区神田美土代町5-2 第2日成ビル6階

03-3233-0766

REV 4.1-2014